

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 10 月 2 日現在

機関番号：22401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24593381

研究課題名(和文)母体・胎児集中ケアのための研修プログラムの開発に関する研究

研究課題名(英文)The study of development of training program for nursing professionals working in the maternal-fetal intensive care unit

研究代表者

大月 恵理子(Otsuki, Eiko)

埼玉県立大学・保健医療福祉学部・教授

研究者番号：90203843

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円

研究成果の概要(和文)：母体・胎児集中治療室(MFICU)の看護職に対する研修プログラムを開発することを目的とした。まず、MFICU中堅看護職に対するグループ・インタビューを実施し、研修へのニーズを明らかにした。そして、これまでの調査結果をふまえ、体系的な研修プログラムを立案した。このプログラム内容の必要性を、MFICU研修会企画担当経験者である看護職に質問紙調査を行った結果、90%以上の項目で合意を得た。また、その一部を試行し、参加者より評価を得たところ、ほぼ研修会の目標は達成され、必要性についても賛同を得た。さらに、研修プログラムを精選するとともに、研修会の企画・運営も修正していく。

研究成果の概要(英文)：Our aim was to develop a training program for nursing professionals working in the maternal-fetal intensive care unit (MFICU). We began by clarifying the training program's requirements by conducting group interviews with mid-career MFICU nursing professionals. Afterwards, we developed a systematic training program based on the findings of previous research studies. To determine the program's essential content, we surveyed nursing professionals with experience planning MFICU workshops. Our results showed that they agreed with over 90% of the workshop's items. We also piloted-tested a portion of the program's content. The participants' feedback, which we requested, showed that almost all of the workshop's goals were achieved and that the participants agreed with its necessity. In the future, we will make further refinements to the training program and improve the workshop's planning and management.

研究分野：医歯薬学

キーワード：母体・胎児集中治療室 ハイリスク妊娠 研修 看護

## 1. 研究開始当初の背景

母体・胎児集中治療室 (MFICU) の設置が開始されてから 15 年が経過し、平成 23 年度には、47 都道府県すべてにおいて MFICU を含む総合周産期母子医療センターが 89 施設、認可されている。MFICU に入院すると高額な医療費が算定されているが、新生児集中治療室 (NICU) とは異なり、MFICU の入院基準 (解釈) に幅があり、MFICU の専門性や特殊性、また、MFICU 看護を実践するために必要な能力とはなにかということについて、明確にされてはこなかった。MFICU 看護職者に対する教育・研修も体系化されたものはなかった。

また、MFICU において入院加療している中心である切迫早産妊婦の管理についても頸管縫縮術や子宮収縮抑制剤の使用については「産婦人科ガイドライン」でも記述されているが、入院安静の程度などは、具体的な記述はなく、その基準は明確とはいえない。各施設で行われている治療・看護にはかなりの相違があると見受けられる。MFICU 施設数も少なく、各施設間の交流も多いとはいえないため、各施設でも経験を積み重ねる中で施設なりの基準を定めていると思われる。これは、いくつかの施設を見学したり、看護職者と話をしたりする中で気づかされることが多い。

それらの状況をふまえ、研究者らは、平成 21 年度から 23 年度にかけて科学研究費補助金 (基盤研究 (c) 研究番号 21592815、研究代表者: 大月恵理子) を得て、MFICU 看護の専門性・特殊性などを明らかにするための調査研究を行った。第 1 段階の全国 75 施設の MFICU 看護管理者への質問紙調査の結果からは、看護管理上の困難感や看護職者のストレス状況とその対策、MFICU 看護職者に必要とされる能力および研修の実態などについての概要が明らかとなった。さらに、その関連や詳細を明らかにするために、看護管理者への半構成的面接を含む実地調査を行った。以上の結果より、看護管理者の困難さには、スタッフの業務負担の多さと、高いストレス状況への対処、ベッドコントロールの難しさなどがあげられていた。また、困難さには施設間の相違が認められ、その因子として MFICU の稼働率や母体の重症度、看護師と助産師の割合などが推測された。そして、看護管理者は、MFICU 看護職に必要な能力を以下のようにとらえていることが明らかとなった。それは、母体合併症や異常妊娠の知識や、全身状態の管理、新しい治療の知識、基本的日常生活の援助のための知識、胎児・新生児の知識などの知識・技術と、精神的な援助、家族への援助、倫理的な感受性、調整能力 (他部門との調整、ベッドコントロール)、自己教育力などの人間性・その他の能力であった。これらの能力を向上させるための教育としては、施設内での勉強会を実施する他、看護協会などが主催する研修会に参加して

いることも明らかとなった。しかし、施設内で行っている研修は、各施設が個々の状況に応じて行っているものであり、その研修内容は手探りのものであった。そのため、MFICU 看護に必要とされる、臨地における教育内容や方法に関する情報を求める看護管理者は多く、情報提供を求められることもあった。特に、ハイリスク妊婦に対する精神的な援助やその家族への援助、管理能力については、必要とされる能力とされていながら、施設内研修会でも、施設外研修会でも多く設定されているとはいえない。切迫早産妊婦の管理など古くて新しいこれらの治療と看護についても、新しい知識や、他の施設での試み等が共有されることが望まれる。

一方、上記調査と並行して行われた、米国のハイリスク妊娠の管理の視察研修や、文献調査からは、アメリカ、イギリス、オーストラリア、韓国では、ローリスク妊娠とハイリスク妊娠管理システムを分けており、一部の国ではハイリスク妊娠のケアにあたる看護職は助産師ではなくハイリスク妊娠のケアを専門とする看護師であった。ハイリスク妊娠のケアについての教育も、日本では助産師教育のテキストにほんの一部を占める一方、米国では、数冊にわたり充実したテキストが存在していた。日本では、助産師は、資格としては、基本的に正常分娩を扱うので、ハイリスク妊娠のケアについての教育が十分ではないのが当然ではあるが、そのような教育背景の中で、助産師が MFICU 看護の中心的役割を担っているなどの課題が明らかとなった。

また、H23 年度に新生児集中治療認定看護師の教育プログラム開発に関する勉強会を実施し、研修内容やその評価についても多くの示唆を得た。NICU においても、施設毎の経験的な治療・ケアが行われていたことも研修という場で多くの施設からの参加者が話し合うことによって共有化できたことは、新生児看護の発達において重要であった。また、ディベロップメンタルケアやファミリー・センタード・ナーシングの考え方、新生児の鎮痛法などが普及されたことは、新生児看護の専門性を高めることに重要な役割を果たしていたと考える。

以上のことより、学校教育という中でハイリスク妊娠のケアについて体系的な教育を十分に受けることなく就職し、on-the-job training によって施設毎の教育でハイリスク妊娠のケアにあたる現状では、その専門性を高めることは限界がある。したがって、MFICU 看護に重要なハイリスク妊娠のケアのなかで、現時点で不足している研修内容を精選したうえで、その情報提供するとともに、ハイリスク妊娠のケアにあたる看護職のネットワーク化を促進し、実践知を共有することを目標とした研修プログラムを開発することは、MFICU 看護の質を向上させる上で非常に意義あることと考える。

## 2. 研究の目的

先行研究から明らかとなった MFICU 看護の問題点と課題および MFICU 看護職に必要とされる専門的能力を基に、母体・胎児集中ケアに携わる中堅以上の看護職に対する研修プログラムを開発すること。

## 3. 研究の方法

### (1) 研究 1

研究目的：MFICU 看護に必要とされる能力のうち、中堅看護職にとっても不足しがちである能力であり、院内研修では実施しづらく、外部教育機関を必要とする研修内容について明らかにする。

研究対象：MFICU 看護職者 10 名程度

研究方法：MFICU 看護を実践する上で必要とされる能力の中で、中堅（臨床 5 年目以上）にとっても不足しがちであると考えられる能力および、院内研修では実施しづらく、外部教育機関を必要とすると考えられる研修内容について、フォーカス・グループ・インタビューによって、データ収集をおこなう。グループ・インタビューの内容を質的に分析し、研修内容を精選する。

### (2) 研究 2

研究目的：MFICU 看護職の体系的な研修プログラム案について MFICU 看護職者の合意率を明らかにし、原案の妥当性を検討する。

研究対象：MFICU に勤務し、病院（病棟）内の研修会企画にかかわったことのあるもの（看護師長、主任など）

研究方法：研究者間で検討し、MFICU における看護実践に必要な研修プログラムを体系化し、大項目 8、中項目 22、小項目 67 の原案を作成した。この案についてデルファイ法を参考に、各項目に対し、「絶対実施することが必要」「実施することが望ましい」「できれば実施したい」「実施する必要はない」の 4 段階で、自記式質問紙調査を行った。妥当性については合意率を算出し、非合意等に関する自由記載は内容分析を行う。

### (3) 研究 3

研究目的：これまでの研究より作成した MFICU 看護職に必要な能力獲得のための研修案の一部を目標とする研修会を試行し、その評価と課題を明らかにする。

研究対象：MFICU 看護職を対象とした研修会に応募したものの。

研究方法：研修会を試行し、参加者からの研修会の内容・運営方法・今後の研修会への希望について自記式質問紙で調査し、課題を明らかにする。

研修会内容：研修会の目標は、1) 長期安静臥床における安楽かつ快適な日常生活支援、2) 長期安静臥床における親役割獲得支援、3) 入院長期化における精神的援助、4) 意思決定支援、とした。研修会は、事例紹介とそれを基としたグループディスカッションで構成し

た。

## 4. 研究成果

### (1) 研究 1

研究協力者 17 名（13 病院）から得られた MFICU 看護実践に必要な能力としては、ハイリスク・異常への対応 ハイリスク妊産婦の精神的支援 産科以外の疾患・症状に対応する知識・技術 他者を受け入れ支える能力 助産の基本的知識・技術 他職種連携 NICU との連携 ストレスコントロール 指導的能力 があげられた。

日常のケアの中には、産科救急時の対応や多様化する合併症への対応の困難さがある。MFICU が機能するほど、入院患者の有する合併症も多様化し、必要な看護技術も多彩になってきている。稀な合併症については、全てを網羅するような学習も困難で、学習機会も得難い状況である。また、MFICU ではあるが、ICU のように呼吸器管理や A-ラインの管理などは、通常行わず、緊急時にはかなり戸惑うことになっている。緊急時はチームで対応することもあり、シミュレーション研修のような実際の研修を期待していると推測される。

精神的支援もハイリスク妊産婦の場合、かなりストレス状態が高く、抑うつ状態にもなりやすいため、支援は必要だが、支援方法を模索する毎日で、より具体的な精神的支援の方法を得られる研修を期待している。また、傾聴すらも多忙や妊産婦の転床、出産などにより十分に関わっていない。そのことが、看護職者の不全感となり、それに対するストレスコントロールのスキルを必要としていることも推測される。

ハイリスクゆえに、多職種と連携をとっているが、時に連携が困難な状況も起こりうる。特に重要かつ頻度の高い NICU との連携であるが、産科スタッフの NICU に関するに関する予後・管理における知識が不十分のため、情報交換はしても、具体的に褥婦に説明することができずケアに活かせられないという課題があり、NICU の看護に関する研修を必要としている。

倫理的な能力である「他者を受け入れ支える能力」においては、その意思決定支援の状況が MFICU ならではの困難さを表していた。これらは、これまでの知識や研修ではなかなか補えるものではなく、さらなるスキルを必要としている。

このような厳しい状況に配置された新人に対して、教育をしなければならないことそのものが困難で、教育方法についてもスキルを必要としている。

### (2) 研究 2

配布数 104 部、回収数は 31 部（回収率 29.8%）であった。

研修プログラムにおける小項目 67 に対して、「絶対必要」では、合意率 50%未達が 24

項目(35%)であり、「実施が望ましい」では、合意率75%未満が10項目(14.9%)、「できれば実施したい」まで含めた合意率は60項目(90.0%)が95%以上であったが、7項目が95%未満であった。7項目は、中項目「長期安静臥床に対する看護」における小項目「食事へのケア」「排泄」「清潔及び皮膚」「筋力低下予防」「親役割獲得」「輸液管理」と、中項目「スタッフ間のコミュニケーション」の小項目「チーム形成」であった。「必要はない」とした理由は、「新人集合研修に含まれている」「MFICUに特化していない」等であった。

研修プログラムの小項目67のうち60項目(90.0%)は95%以上の合意が得られた。しかし、合意率が低かった項目については、研修プログラムに含めるかを研究者間で吟味し、MFICUに特化した内容として修正するか削除するかを検討する必要がある。

### (3) 研究3

参加者は15施設より23名であった。

研修会の目標達成については、親役割支援のみ81.8%の達成率で、それ以外は90%以上の達成率であった。同様の研修会の必要性については、全員が「絶対に必要」または「かなり必要」と回答した。倫理的な課題を含む事例を基に検討する研修会の重要性や、多施設の参加者から情報共有することの重要性が回答された。

研修は、事例による問題提起後に多施設からの参加者によるディスカッションをしたことで効果的となった。一方、親役割支援の理解を深めるには、親役割支援の重要性も含めた事例の提示、参加者の関心と話題が向くようなディスカッションのファシリテートが今後の課題といえる。

### 4) まとめ

先行研究と、MFICUの中堅看護職者に対するグループ・インタビューの結果および、試行した研修会に対する評価結果から、精神的支援や倫理的な課題を含む事例を基に検討する研修会の重要性や、多施設の参加者から情報共有することの重要性が認められた。今後も、研修会を試行し、内容・運営方法を改善する必要がある。

また、MFICU看護職に向けた研修内容の全体について、先行研究から整理して提示したが、合意率が低い項目もあり、今後も精選していく必要がある。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0件)

〔学会発表〕(計 1件)

大月 恵理子, 坂上 明子, 林 ひろみ, 平石

皆子, 松原 まなみ. 母体・胎児集中治療室(MFICU)の看護職者にむけた研修プログラムへのニーズ. 母性衛生. 2014, 55(3), 275.

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕  
出願状況(計 0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計 0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕  
ホームページ等

### 6. 研究組織

#### (1) 研究代表者

大月 恵理子 (Eiko Otsuki)  
埼玉県立大学 保健医療福祉学部 教授  
研究者番号: 90203843

#### (2) 研究分担者

高島 えり子 (Eriko Takashima)  
順天堂大学 医療保健学部 講師  
研究者番号: 10431735

#### (3) 連携研究者

坂上 明子 (Akiko Sakajo)  
千葉大学 看護学研究科 准教授  
研究者番号: 80266626

#### (4) 連携研究者

菅林 直美 (Naomi Sgabayashi)  
淑徳大学 看護学部 助教  
研究者番号: 4036351

#### (5) 連携研究者

中村 康香 (Yasuka Nakamura)  
東北大学 医学(系)研究科(研究院) 助教  
研究者番号: 10332941

(6)連携研究者

成田 伸 (Shin Narita)  
自治医科大学 看護学部 教授  
研究者番号：20237605

(7)連携研究者

林 ひろみ (Hiromi Hayashi)  
千葉県立保健医療大学 健康科学部 准教授  
研究者番号：9028459

(8)連携研究者

林 佳子 (Yoshiko Hayashi)  
札幌医科大学 助産学専攻科 講師  
研究者番号：50455630

(9)連携研究者

平石 皆子 (Minako Hiraishi)  
山形県立保健医療大学 保健医療学部 准教授  
研究者番号：30301419

(10)連携研究者

松原 まなみ (Manami Matsubara)  
聖マリア学院大学 看護学部 教授  
研究者番号：8018539

(11)連携研究者

森田 亜希子 (Akiko Morita)  
埼玉県立大学 保健医療福祉学部 講師  
研究者番号：10402629

(12)連携研究者

齋藤 明香 (Asuka Saito)  
埼玉県立大学 保健医療福祉学部 助教  
研究者番号：90736480